

事後評価書

箇所名	茅広江地区		事業名	中山間地域総合整備事業	課名	農山漁村づくり課
事業概要	工期 (下段計画)*	平成13年度～平成22年度	全体事業費 (下段計画)*	1,285百万円(負担率:国55%:県30%:他15%)		
		平成13年度～平成21年度		945百万円(負担率:国55%:県30%:他15%)		
事業目的及び内容		<p>1 事業目的                      当事業区域は、松阪市広瀬町、茅原町に跨る橿田川沿岸の中山間地域であり、農地は急傾斜かつ未整備で分散しているなど、地理的条件が不利な地域であることから、ほ場整備などの農業生産基盤の整備が取り残されており、耕作放棄地の増加が危惧されていました。                      こうしたことから、当事業は、ほ場整備を実施することによる大型機械の導入や農業用水施設の整備による用水管理の省力化を行い、農業経営の安定化による地域農業の持続的な安定を図ることを目的として実施されました。</p> <p>2 事業内容                      農業用水施設整備 L=3.47km、ほ場整備 A=26.3ha、農地防災 ため池 1箇所</p>				
1・事業の効果		<p>○直接的効果</p> <p>(1) 費用対効果分析(農林水産省監修「土地改良の経済効果」による)                      計画時の投資効率 =1.19                      実績時の投資効率 =1.17</p> <p>(2) 定性的効果                      ほ場整備の実施により大型機械での乗り入れや作業が容易となりました。また、用水路の維持管理の労力が軽減されました。                      農業用水施設整備により農業用水が安定的に供給されるようになりました。                      ため池整備により堤体の安定が図られました。</p> <p>(3) 施設の管理状況                      農業用水施設整備により整備された貯水池とポンプは、地元の農家により適切に管理されています。</p> <p>○間接的効果</p> <p>(1) 波及的効果                      アンケートでは、「水不足がなくなった」「通行が楽になった。」という意見をいただいています。</p> <p>(2) 事業実施による間接的効果                      アンケートでは、「(道路も良くなり)健康づくり等ウォーキングに利用されるようになった」という意見をいただいています。                      アンケート結果及び、現地確認の結果、本事業を実施した地区内には耕作放棄地はありませんでした。</p>				
2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化		<p>(1) 環境面への配慮                      一部の排水路を土の部分を残した環境水路として施工しております。                      田の畦畔工の一部に現地発生材を利用した石積みを施工しております。</p> <p>(2) 環境の変化                      アンケート結果からは環境への影響は小さいという結果となっております。</p>				
3・事業を巡る社会経済情勢等の変化		<p>農産物価格が低迷し高齢化が進展している中、営農意欲が低下していましたが、本事業の実施により、作業効率が向上したこと、維持管理の省力化が図られたことで、営農意欲や地域の農地を守っていこうとする気運が高まっています。</p>				

#### 4・県民の意見

##### (1) 県民の意見の徴収方法について

事業地域内の2集落、137戸にアンケート調査を実施しました。

質問事項は、①本事業の認識の有無、②農作業の委託の有無、③農業面での効果、④世帯の今後の農業の方向、⑤農業面以外の効果、⑥施設の管理状況、⑦自然環境・景観への影響、⑧今後、事業を実施する場合の配慮すべき点について、の8項目です。

##### (2) 県民の意見の内容（全体の意見と肯定、否定意見等）

アンケートでは計130戸から回答を得ました。（回収率95%）

- ① 事業の認知度は、89%でした。
- ② 農作業の委託については、全体の44%が農作業を委託しており、全ての作業を委託しているのは12%でした。
- ③ 農業面での効果（複数回答）については、93%が「効果があった」と評価しており、特に「農作業が楽になった」27%、「農道や水路、排水路の維持管理が楽になった」26%、また、「耕作が続けられるようになった」15%、「耕作放棄地対策として効果があった」13%など、評価されています。
- ④ 世帯の今後の農業の方向では、69%が「今後も農業を続けたい」となりましたが、「家族が跡を継ぐ」が27%にとどまりました。「自分たちができるまで」の42%、「農作業を委託したい」の15%、「わからない」の10%と合わせると、67%が委託の可能性がわかりました。
- ⑤ 農業面以外の効果（複数回答）では、84%が「効果があった」としており、「集落内道路の通行がスムーズになった」45%、「集落内の雨水排水が改善された」19%など、事業の実施が地域の農村生活環境の向上に寄与していることがわかりました。
- ⑥ 農地や施設の管理状況については、65%が「適正である」と回答し、2%が「適正でない」と回答しています。
- ⑦ 自然環境・景観への影響については、自然環境・景観を合わせて、「よい影響」33%、「変わらない」32%に対して、「悪い影響」5%と事業による負の影響は小さかったことがわかりました。内容としては、自然環境に関して「生活排水が混入しなくなった」「ホタルが飛ぶようになった」という意見がある一方、「植物や昆虫の種類が少なくなった」、景観に関して「全体的に景観が良くなった」という意見に対して「昔からの自然の景色がなくなってしまった」という意見がありました。

#### 5・再評価の経緯

再評価の実施はありません。

#### 6・今後の課題等

本地区においては、事業の実施により大型機械の導入や用水管理の省力化が進んだことにより、営農意欲が向上し、耕作条件が改善され、耕作放棄地の危惧が解消されましたが、今後は、高齢化が進む中、農業の後継者不足が危惧されているため、農地の担い手への集約化が課題となっています。

対策としては、担い手への営農の委託の推進や、農地や農業用施設の維持管理費への補助制度の活用等を推進していくことが挙げられます。

今後の中山間事業における事業の実施についてはこうした認識をふまえ、地域の人とともに考え、効率的で効果的な事業実施を行っていきたいと考えています。

※再評価実施事業は(下段前回)とし、前回は再評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する